

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

知識・技術向上のため、ナースングスキルを活用し、インシデントの多い項目については院内看護手順と合わせて視聴し、提示したものに関しては100%視聴できた。IVR介助は合計228件介助につき、IVR手順の改定は2件(CVポート留置・TAE)行った。改定した手順に沿って介助を行うことで、物品の不足や時間のロスがなかったまた緊急IVRの事例振り返りを8件実施し、注意点にポイントを置き情報共有したことで安全看護の実施につながった。

2) 病院運営・経営に参画できる

重症度、医療・看護必要度の正しい評価をするため、看護記録より評価と記録の整合性があるか、コスト漏れは無いかに着目し、日々各勤務のリーダーが全患者の記録を確認することができた。看護必要度は年間平均59.35%で、目標の月平均31%を達成できた。物品の紛失防止の取り組みとして、各収納場所に物品名と定数をラベリングで明示したことで、毎月のチェック以外でも早期に紛失に気づけ、タイムリーに捜索・確認ができ紛失防止に繋がった。

3) 患者の視点にたった医療安全を推進する

インシデントを病棟全体で考え、タイムリーな振り返りができるよう、毎週インシデントカンファレンスを行った。インシデントの1週間の共有率は65.8%から70.8%へ上がり、活発な意見交換も出来るようになった。ICTが中心となり、手洗いのタイミングやPPEの着脱のチェックを個別に指導した。病棟ではインフルエンザなどの流行性疾患の罹患者はなく感染防止につながった。

4) 専門職としての能力開発に努める

経年別教育プログラムへの参加、病棟勉強会の実施など、経年別看護師の個々のレディネスを把握し、計画的に能力開発に取り組んだことで、個々の課題は明確となり、院内勉強会への参加平均回数は一人12回、院外への研修参加者は17名で、うち数名は病棟内で伝達講習が出来た。前年度の看護研究は中国四国看護研究学会で発表し、緊急入院時における患者が求める看護を看護実践に活かすことができた。

5) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する

病棟ではPNSで患者を受け持っている。年間パートナーで設定した目標を掲示し、医療安全取り組み月間では、確認不足を減らすためにペアで目標を挙げ取り組んだことで相互に補完することへの意識向上につながった。患者や多職種への挨拶はポスター掲示し働きかけ、積極的に挨拶ができるよう取り組めた。

2. 病床運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収容可能病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院患者数(人)	平均在院日数(日)	病床利用率(%)	病床稼働率(%)	死亡者数(人)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)					
12	救急	121.2	10.6	4.2	2.0	35.2	38.1	6

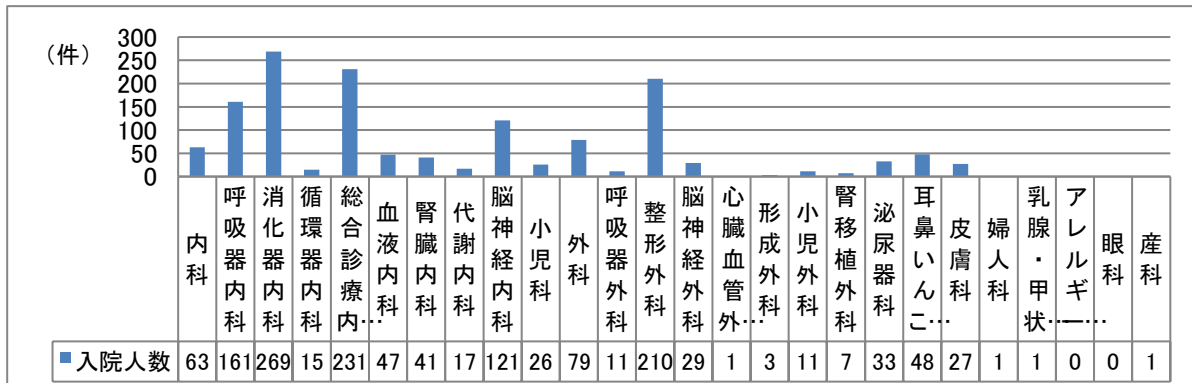


図1 年間診療科別入院件数

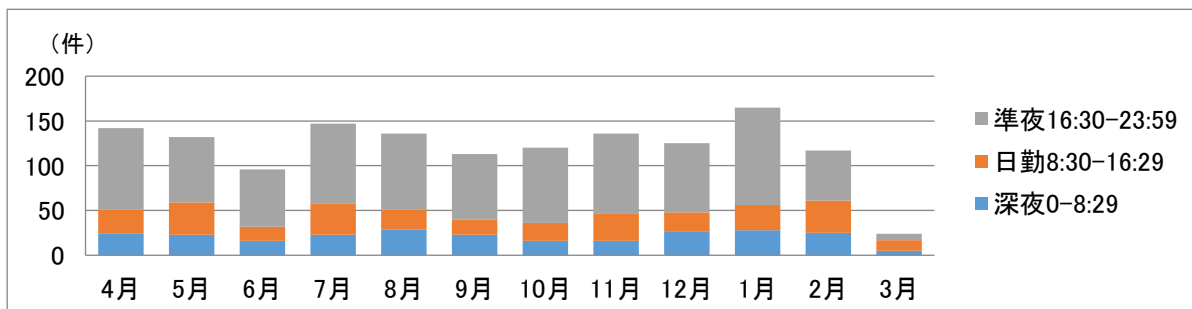


図2 年間勤務帯別入院件数

3. 看護体制

表2 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
29	PNS [®]	3:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表3 令和元年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	57.5	51.7	57.6	54.6	64.1	66.0	52.2	56.4	63.3	59.5	58.7	50.0	57.6

2) IVR 介助 科別実施件数

表4 年間診療科別 IVR 件数(件)

外科	血内	呼外	呼内	産科	循環器	消内	腎移植外科	心外
19	22	10	28	5	1	16	4	15
腎内	整形	総診	代内	乳腺	脳外	泌尿器	児外	合計
68	19	9	2	1	1	7	1	228

5. 研究業績

1) 看護研究発表・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
緊急入院時における患者が求める看護	伊堂寺ゆき子	看護研修発表会	院内	2019年2月8日